

公開実用 昭和 58-29952

Ref.4



実用新案登録願

昭和 56年 8月 24日

特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 考案の名称

エアゾール容器用オーバーキャップ

2. 考案者

住所 東京都東村山市秋津町3-18-28

氏名 矢沢 勲

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号

氏名(名称) 東洋エアゾール工業株式会社

代表者 高野 新三郎

(国籍)

4. 代理人

住所 東京都港区新橋3-12-10馬場ビル

氏名 (6819)弁理士 清水



5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通
(3) 順書副本 1通

特許庁

56.8.24

出願第二課

(2) 図面 1通
(4) 委任状 1通

550



56 124116

実開58-29952

明細書

1. 考案の名称

エアゾール容器用オーバーキャップ

2. 実用新案登録請求の範囲

エアゾール容器の上端を被覆し下端をエアゾール容器に着脱自在に嵌合するキャップ本体を設け、このキャップ本体の上端に蓋体にて被覆された収納部を形成した事を特徴とするエアゾール容器用オーバーキャップ。

3. 考案の詳細な説明

本考案は上端面に収納部を形成したエアゾール容器用オーバーキャップに係るもので、エアゾール容器の内容物噴霧に使用するノズル、刷子等の付属部品又はエアゾール容器内容物の使用説明書等を収納し得るようとしたものであつて、以下その一実施例を図面に於て説明すれば、1はエアゾール容器で、内容物の収容部2上端には巻締部3を介してマウンテンカップ4を嵌合固定している。5はこのマウンテンカップ4の中央部に形成した押釦で、マウンテンカップ4の中央部より突出し、

(1)

実開56-29952

551

エアゾール容器1内の弁機構と連通したシステム（図示せず）の上端に連通固定し、押圧によつて弁機構を開弁して内容物を噴射口6より噴射し得るよう構成している。7はエアゾール容器1の上端を被覆し下端をエアゾール容器1の巻締部3に着脱自在に嵌合するキャップ本体で、上端面には内薄の折曲可能部8を介して開閉自在に連結した蓋体9を形成している。11はこの蓋体9により被覆されるキャップ本体7の上端に形成した収納部で、エアゾール容器1へのキャップ本体7取付状態に於て押鉗5を押圧する事のない位置に底板12を形成し、被収納物の収納を可能としている。而してこの被収納物は特定の物品に限定されるものではなく、エアゾール容器1と関連をもつて使用されるものは全て対象と成り得る。一例に於ては被収納物として長尺状のノズル13を収納し、この長尺状ノズル13を噴射口6に接続し物品の奥の部分とか家具等、物品間の狭い部分に殺虫内容物等適宜の内容物を噴霧する場合に用いる。又他の一例に於ては刷子14付のノズル15を収納

し、このノズル15を噴射口6に接続し塗料、染
料剤等の塗布型内容物を刷子14にて目的部に塗
布するものとする。又更に異なる他の一例に於て
は収納部11の外周面への印刷、ラベル添着のみ
では内容物の説明が不充分な場合に説明書を収納
しても良い。又更に異なる他の一例に於ては内容
物使用後の残留ガスを排出するため、エアゾール
容器1の穴空用具を収納しても良い。収納部11
には要するにエアゾール容器1と関連をもつて使
用されるものであれば良く、エアゾール容器1の
使用効果を高める事が可能になるとともに通常で
は紛失し易いこれらの収納物を収納部11で確実
に収納保存する事ができるものである。尚図面中
16は蓋体9の開閉時に用いる指掛け穴で、蓋体9
の一側に半円状にて開口している。又17は蓋体
9の収納部11側に突出した係合突片で、収納部
11の内周面に圧接し蓋体9の収納部11への係
合を確実とするものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示す斜視図である。

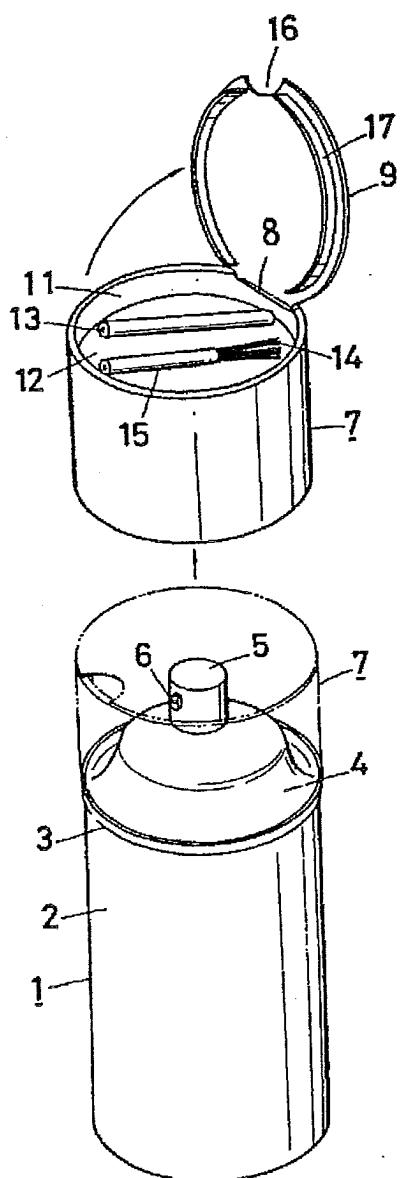
公開実用 昭和 58-29952

1 ……エアゾール容器

7 ……キャップ本体

9 ……蓋 体

11 ……収納部



清水修理工

555
昭和58-2129952